

---

# チョイカワ女がイケてるインテリ落とす過程。。。。。。

微少可愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>



第一話【無料の恋に出会っちゃった系！！？ご飯三杯食える系。】

どーもっ！！！！！！！！！

まわりの皆よりは、ちよいとポツチャリだけど顔はまあまあ力ワイ  
イ（愛嬌がある笑）と言われたり言われなかったりな高校2年！  
いっつも、友達とバカな事やって恋やら愛やらとは無縁の高校生活  
を送っております！！！！！！

大沢 古都っ！！！！

通称トツコでございますっ！！！！！！！！

大好きな友達と大好きな家族に囲まれ、まあー悩みもありますが楽  
しく生活しておりますっ！！！！！！

明日からはいよいよ高校2年！  
これからは自分の将来の事、家族の事、そして恋愛について少しは  
真面目に考えるのが一応目標！！！！！！

コケコッコー!!!!!!!!!!!!!!

今日から2年!!新しい教室、新しい先生、新しい友達!みんな  
新しい事づくめの毎日が始まる!

と、思いきや……

「おっはよー!!!!!!!!!!また同じクラスかよっ!」

新しい私のクラス2年A組にはいつもの顔が……!!!!!!

ミユもカネちゃんもサオモアヤもまた同じクラスじゃん!!!!(ハ

^)

また去年みたいに女捨てて騒ぎまくる感じになりそうな予感がブンブンやあー！！！！！！！！！

しかも2年A組は男子8人女子32人の女子高状態！！！！

私らのオゲレツっプリが加速しそうな予感で、自分でも怖いわ！！！！私が席につくなり

ミハー精神のかたまりのカネちゃんはさっそく、

「ねえー！トツコ、あの1番の荒木 章博って人この学校で人気あるみたいよっ！！！！」

「ふーん。なんか身長どでかいなー。顔そんなにカッコイイかー？」

「アホっ！おめえーに他人の顔のこと言う資格はねえ！！！！！！」

「そりゃーすいませんわ！」

とにかくアキヒロさんの第一印象はこんな感じ。

この男に出逢っちゃった私、

これから先、

今まで出逢った事のない新しい自分にも出逢っちゃったんだ。出逢っちゃったんだ。

こんな感じで私の高校2年生の1日目を終えた。

私らはお決まりの放課後！女会議に夢中！！！！

「トッコ！アヤとサオがアキヒロさんの事知ってるんだって！」

「カネちゃんゝあんた彼氏いるじゃん！あんたハイエナのように男に食いついて怖いわっ」

「何言ってるのっ！！あんたの為にわざわざ食いついてあげてるんだからねっ！！！！16年間男もいないし、小デブちゃんだし、女捨ててるし、恋話より裏芸能情報で盛り上がるし、ってか体型が40代だし・・・ねっ！」

「ねっ・・・って！あんたっ！！言い過ぎじゃボケーっ！！！！  
！！！！小デブじゃないわポツチャリじゃー！！！！！！しかも40代  
って・・・なめてるんか！」

「ほらー！言葉使いがもうオッサンじゃん（笑）」

「またこの二人やってるよー。トッコ、カネちゃんうるさいからや  
めろー」

私とカネちゃんのいつものくだらない話を止めたのは、いつものミ  
ユとアヤとサオ。  
いつもの光景だ。

いつもの仲間といつもの場所でいつもの会話。

でも・・・

‘いつもの’ 私達はだんだん変わり始めたんだ。  
良いようにも悪いようにも。

一人の男が原因で。

2年生2日目。

「さっそく今日から授業かぁ、しかも1限から現国だよー、最悪！  
！ってかさートッコは？遅刻？アヤ、サオ、ミユ何も聞いてない？」

「いつもの遅刻でしょ！！また昨日の夜遅くまでバイトだったみたいだしー。」



「ヤッバーイ！！！！新学期そうそう遅刻だよー！！！！現国の先生  
怖いんだよなー泣。ヤバイヤバイヤバイ！！！！」

1年の頃と変わらず私は毎日バイトに追われて、遅刻常習犯なんて  
言われた。

今日も昨日のバイトの影響で朝寝坊・・・・・・・・泣

でも「遅刻常習犯」が二人の接点になったんだ。

「大沢さん？もしかして遅刻？」

あっ・・・・・・ヒロアキ・・・・・・違っ違っ！！！！！！  
荒木 アキヒロ！！！！

「あっ！！おはよーさんっすー！！！！荒木さんも遅刻かいな〜！！  
！！良かったー誰かいて！！！！現国の先生怖いからビビってたわー」

「えー！あの先生怖いんだーヤバイな俺ら！ってか荒木さんって呼ぶ人大沢さんが初めてだよー。」

「いやあー初めて喋るからヤッパリさん付けが基本でしょー！」

「なんじゃそりゃー！！ヤッパリ大沢さんウケるね！！！」

「ヤッパリってなんじゃ！！！？？」

「だって、大沢トツコはめっちゃ面白いって皆言ってたし！！」

「いやぁーやっぱり私の面白さメジャー級だったんだね（笑）！！！！」

「確かにメジャー級、メジャー級！！！！ねえー俺も今日からトツコって呼んでいい？」

「あ・・あ・・別にいいよ！・！・！んぢゃあ今日から私はアキヒロさんって呼ぶわ！・！」

「またさん付けかい！・！・！・！」

「もうちょっと仲良くなったらアキヒロでいかして頂きますわ！」

「まあーいいけど。さん付けで。」

教室に向かう短い間に私とアキヒロさんは初めて会話を交した。

アキヒロさんはちょっとインテリっぽくて、普通の高校2年生より大人びた感じの人だった。

その後教室に入った私たちが先生に怒られたことは言うまでもない。  
・・・（笑）

「トッコ、おはよー」

「あつ！カネちゃんおはよーっす！ーってか何！その何かをたくらんでいる顔！ー！ー」

「あんた！さつき荒木さんと一緒に来たじゃん！ーもう知り合っち

やった系！？？小デブちゃんにもついに春到来系？？！」

「アホかつ！！！！そんなんじゃないわっ！！しかも私はポツチャリじゃ！！デコ広巨人がつ！！！！！！」

「まあーポツチャポツチャリのトッコには荒木さんは無理だよなー  
まあーあんた顔はまあまあカワイイけど、中の中つてとこだしね」

「上の下くらいじゃっ！！！！しかもわたしやゝどうもイケメンと呼ばれる奴はあんま好きじゃないんじゃない？。デコ広巨人はあさんよゝ。」

「うっさいわ！小太りじいさんがっ！！！！」

カネちゃんは私が教室で少しでもアキヒロさんと喋ると、いつもこんな感じでからんできた（・・・；）

正直私はアキヒロさんのことをあんまりカッコイイと思えないし、何よりイケメンと呼ばれる類の人種に興味がない！！

皆にイケメンと呼ばれて調子にノッてる感じがうざったいからだ。

まあーその前に男の人とからむ事が苦手だった。

ぶりっ子や女らしさからもかけ離れてるし、男の前ではついついふざけてしまう。

母子家庭だった私は小さい頃から男の人に甘えたり、話をしたりするコツがよく分からなかった。

だからいつしか、男子たちには「お笑い芸人」だとか言われたりして、まったく恋愛というものにたどりつかなかった。



でも、心の中では寂しいときや泣きたい時には男の人の胸を借りて大泣きしたい・・・なんて思ったりもしてたんだ。

「ジャンケンポンっ！！！！！！やったー！！！！勝ったー！！！！ト  
ツコは負けたから図書委員決定！！！！」

「嫌だぁー！！！！！！アヤ代わってよー！！あんたバイトしてないし暇じゃーん！！！！」

「やだよーだっ！ーあたし部活あるし！ー！ー！そんなに本読まないし！ー！ー！あっ！ー！ー！今日からさっそく図書委員の活動始まるみたいだから、放課後図書室行ってきてね！。」

はあゝ最悪だ・・・あんまり本を読まないあたしが図書委員・・・  
・・・しかも一年間も泣！ー！ー！

その日、私はバイトの時間をずらしてもらって図書室に向かった。

「トッコー！ー！ー！っちだよー！ー！ー！」

「あつ！！アキちゃん！！アキちゃんも図書委員！？良かったー知り合いがいてー」

アキちゃんは隣のクラスの友達。

結構オタクっぽいけどかなりの美脚の持ち主！！

何でも相談に乗ってくれるお姉さんの存在。

「トッコー、今日から毎日図書室の掃除とかあるけど、バイト大丈夫??」

「30分くらいなら大丈夫だよ！！帰らなくちゃいけない時もあるけど、頑張るわ！！」

「オッケー！！！！んちゃあさっそく図書室の掃除始めるかつ！！トッコは部屋の奥の本棚整理お願いね！」

「オッケーい！！！！任せてやあー！！！！」

私はさっそく図書室の1番奥の本棚の整理に向かった。

初めて行く図書室の奥・・・

ホコリくさいけどなんか懐かしい、胸がキュルルとするような場所・  
・

そこにあるソファにはアキヒロさんが座ってた・・・

「あっ・・・トッコ!????何してんの????」

「おっ・・・どーも・・・あたしゃー図書委員だから掃除じゃ掃除!!!!!!!君、本とか読むんだー・・・」

素の私は苦手な男性に何故か動揺・・・

さりげなくこの場を離れようと、隣の本棚に向かった。

「あっ！まってトッコ！！！！もしかしてアキいる？」

・・・??!!

「あっ！アキちゃん！？？いるよ！！あっちで本の整理してる！」

私は一瞬ビククリした。

アキヒロさんがアキちゃんと知り合いで、なんか仲良さそうで。

別にアキヒロさんの事が気になってた訳じゃなくて、あのオタクで妄想仲間だったアキちゃんに、男の陰があつたなんて・・・！！

なんか置いて行かれた気分（笑）

それから、アキヒロさんは大事そうに本を2冊もってアキちゃんの所に歩いて行った・・・

アキヒロさんは2冊のうちの一冊をアキちゃんに渡して、子供のような目をしながら本の話をしてた。

私は、その光景を見て、こいつタダのイケメンじゃないな。

こりゃあイケメンの革命児・・・

いや、イケメンの異端児・・・

いやいや、イケメンの秘蔵ツ子・・・

って、

言い過ぎ（笑）！？

でも、イケメンの中にもうざったくない種類だっ！

って勝手に心の中のイイ人コーナーに仲間入りさせたのであるっ！

それから私は毎日放課後はアキちゃんと一緒に図書室の掃除をすることになった。

「トッコー！！今日も図書室掃除？？今日あんたバイト休みでしょ？？アヤとサオと買い物行くから来なよ！！！！」

「カネちゃんごめん！！今日、他の図書委員の人休みでアキちゃんしか居ないから掃除行かないといけないのよーっ！後で合流するわ！！！！」

「おっけい！！んちゃあ後でメールして！！真面目に掃除してるなんてウケるけど、まあー頑張って！！！！」



「一言多いはデコ広巨人っ！！！」

それから私はアキちゃんと一緒に図書室に向かった。

今日も図書室にはいつもの人達が笑えるくらい静かに本を読んでいた。

そしていつものようにアキヒロさんもソファに座って本をよんでいた。

私が掃除してる間アキちゃんとアキヒロさんは、自分のオススメの本を交換するのが日課になった。

なんか私は蚊帳の外になっちゃった感じ……

なんか悔しくて、私も二人の会話に入りたくて、初めて本を借りることにした。

でも、結局バイトやら遊びやらに追われて読めたのはたった5ページ（笑）

私はいつもの日課、放課後図書室掃除の間にたった5ページしか読んでない本とお別れした。

結局知的な女にはなれず・・・

その時、

「トッコも本好きなの！？作家は誰が好き？その本良かった???」

アキヒロさんがあの時の子供みたいな目で話しかけてきた・・・

「あああ・・・知的な女を目指して本借りたんだけど、無理っす！  
！知的な女を手に入れば、パーフェクトだったんだけどね、ま  
あー完璧な女は可愛くないからちようどよかったけどねっ、ガハハ  
」

「アハハっ確かにトッコにはちよつと似合わないかもな！！んぢや  
あこの本はいつもの様にアキに貸すわ！」

「うん！そうしてくれ！わたしやゝ本棚掃除に戻るわ！」

なんか悔しい・・・

また私だけ仲間外れになるんかい!!!

アキヒロさんとアキちゃんは、このまま読書が二人の共通の趣味になりお付き合いか・・・

悔しい・・・・・・・・アキちゃんは妄想オタク仲間なのに・・・・・・・・

うつうつ、

違う・・・

まだ私はアキヒロさんと仲良くなつてない・・・

アキちゃんと付き合う事になるなんて嫌だ・・・

そう、

私、トツコ・・・

久しぶりに恋に落ちたっばい・・・

一度恋に落ちると、どうしようもなく好きになってしまう・・・

好きになった原因なんてワカラナイけど・・・  
何をしてたってニヤニヤしたり、

無駄に鏡見たり、

カワイイ下着はいて学校いつてみたり、

常にムダ毛処理はバツチリになつたり・・・

勝手に相性占いしてみたり・・・（笑）

休み時間ごとに脂とり紙を活用したり・・・

小デブな自分がもの凄く嫌になつたり・・・

昨日食べた2膳分のご飯を恨んだり・・・

今までのおふざけキャラの私らしくないワタシに、私が1番驚いてるし、恥ずかしくて、ムズムズする・・・

そして・・・彼が登校する時間になると、体が勝手に加速する感じで・・・

あっ！！来たっ

「おはよーアキヒロさん」

「おはよー」

これだけで飯が三杯食える・・・（笑）

授業中もさりげなくかつ見逃さず、アキヒロさんを凝視（笑）

汚い字・・・数学は寝てる・・・英語の発音は恥ずかしそうに・・・笑  
った時の八重歯・・・

全部に心がダンスして、今ならムカツク人の肩だって揉んでやれる！

私は別に付き合えなくても全然オッケー！！！！

ただ一つワガママと言えるなら、

誰とも付き合わないで・・・ってことだけ

あっ！もう一つ（笑）

いつでもいい、何分でも何秒でもいいから、

24時間の内のほんの少しの時間・・・アキヒロさんとの二人ぼっち



の時間が欲しい。手をのばせば触れられるほどの距離で・・・

アキヒロさんに恋して多分もう2週間・・・

誰にも言わず、特に何もせず、ただど贅沢に恋ってものを楽しんでる・・・イヒヒっ・・・

どんな映画や恋愛ドラマでも感じたことないキュン、ニヤっ、ドキっ、を無料で楽しんでますっ（笑）

あらためて、恋は無料だったんだね（笑）

さあー、今日もお待ちかねの図書室掃除タイム！

今日は昨日より少しだけ長く喋りたい．．

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9420c/>

---

チョイカワ女がイケてるインテリ落とす過程。。。。。。

2010年11月25日01時04分発行